

【特集】

検査オーダーリングシステム導入の事例紹介
院内の改善効果にズームイン！

平成26年7月発行の広報誌(第449号)では、診療所における検査オーダーリングシステム^{〔注1〕}導入事例をご紹介しました。今回は、病院^{〔注2〕}での導入事例をご紹介いたします。

これまで検査依頼書で提出するにあたってどのような問題を抱えていたのか、検査オーダーリングシステムを導入したことでどのように問題解決につながったのか、ここでは経営層から医療安全管理室、各部門の現場まで、実際の声を聴かせていただきました。

〔注1〕「検査オーダーリングシステム HOSTIA(ホスティア)の紹介」は9ページに掲載しています。

〔注2〕今回の記事作成にあたっては、医療法人和同会 広島パークヒル病院及び西広島幸楽苑様に全面協力していただいております。

◆医療法人和同会 広島パークヒル病院様及び介護老人保健施設 西広島幸楽苑様のご紹介◆



1. 施設概要

【広島パークヒル病院】

院長) 小熊 信夫 先生

診療科) 内科、神経内科、リハビリテーション科、放射線科

病床数) 114床(医療療養50、回復期リハビリ46、緩和ケア18)

【介護老人保健施設 西広島幸楽苑】

施設長) 占部 武 先生

病床数) 130床(一般入所100、認知症専門30)

通所リハビリテーション (定員80名)

2. 特徴

自宅で生活できるように訓練や治療を行い、在宅復帰を応援する病院である。

同一敷地内に病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、短期入所生活介護、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、認知症対応型共同生活介護、介護付き有料老人ホームを設置し、それぞれの特徴を活かしながら有機的な連携のもと、人と人とのつながりを大切にした医療・リハビリテーションを提供している。

また、地域の医療機関と連携しながら「支える医療」を提供し、地域の医療・福祉の向上を目指している。

経営層の声

広島パークヒル病院院長

小熊 信夫 先生

当院では、病院全体の業務報告書として年報を作成しています。その中で、ここ数年委託検査に関するインシデント報告が増加していることが気になっていました。

多くは検査委託する側の病院内のインシデントでした。具体的には、依頼ミスや容器違い等々です。いずれにしても患者さんに再採血をお願いすることになります。これは、医療安全からみても病院経営面からみても改善する必要性ありと感じていましたが、何をどのようにすれば良いか当時はアイデアがありませんでした。

そんな時に医療安全管理室からオーダリングの提案があがってきました。最初は、パソコン操作でのオーダーのため院内で浸透するかは不安でしたが、慣れると簡単で便利でした。ラベルがその場で出力されるのはとても便利で、間違いがなくなりました。（個人的には過去のオーダー履歴から依頼する方法をよく利用しています。）

オーダリング導入と同時に1社化され、検査委託のルールがとてもシンプルになりました。また、マニュアルが1本化されたことも当院にとってはよかったことです。

最後に、病院機能評価の審査の際には、サーベイヤーから検査委託のオーダーはかなり工夫されていますね、と評価されたことも報告しておきます。



西広島幸楽苑施設長

占部 武 先生

医師会検査センターさんとわが医療安全管理室とが連携して導入を進めてくれた検査オーダリングシステム（HOSTIA）とカルテ情報ファイリングシステム（WOLF）ですが、今では当たり前のように毎日使わせてもらっています。

いずれも操作が簡単のため、パソコンに不慣れな職員でも使えているようです。

オーダリングシステムでの検査依頼に際しても、検査依頼書と検体ラベルが印刷されて出てくるので、手書きすることがなくなり、時間短縮、省力化、過誤のリスクが少なくなったようです。

また、検査結果をその日のうちにパソコンで確認できるうえ、検査結果の印刷はもちろんのこと、時系列での表示も可能でとても役立っています。

最後になりますが、今後さらに、検査報告の迅速化と検査精度の向上に努めていただきたいと願っています。

内部精度管理や外部精度管理の成績をこの『臨床検査センターだより』に定期的に掲載発表されていかれることで、医師会検査センターのさらなる検査精度の向上や医療機関などからの信頼を高めていくことにつながっていくものと考えます。頑張ってください。



医療安全管理室の声



田中 栄子 さん／医療安全管理室看護師長

検査オーダーリングシステム HOSTIA(ホスティア)との出会い

検査オーダーリングシステムを医師会検査センターさんが開発なさったのが、平成25年4月。ちょうど同じころ、検査に関する事故事案（検査伝票記載間違い、検体容器間違い etc.）を解決すべく頭を悩ませていた当院にタイミングよく提案していただき、HOSTIA を院内導入したのが平成26年4月でした。ここから院内の検査業務の改善がスタートしました。

検査のご依頼から結果確認までの流れ



〔注3〕WOLF:カルテ情報ファイリングシステム

検査オーダーリングシステム HOSTIA(ホスティア)の院内導入後のいま

当院の臨床検査室では1名の検査技師が業務にあたり、血液および尿一般検査以外は外部の2つの検査機関に委託していました。そのため、検査業務のプロセスが複雑化し、検査技師1名体制では戸惑いがあったり、対処しきれないことがあったりすることで、エラーの発生要因になっていました。

それが今ではどうでしょう。

外部委託先を広島市医師会臨床検査センターさん一本にしたこと、それに加えて検査オーダーリングシステムを導入したことで、目に見えて分かる結果が得られました。

全体の臨床検査業務エラーは、導入前35件に対して導入後は18件（▲48.5%）と半数にまで減少しました。

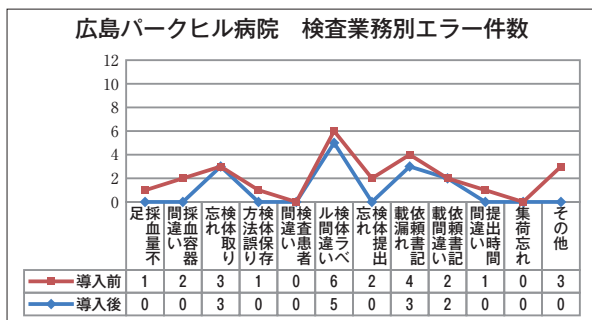
事業所別では、導入後、パークヒル病院13件（▲48.0%）、老健施設5件（▲50.0%）と十分な減少効果が得られました。

エラー別では、先行導入した老健施設で「検体ラベル間違い」「検体取り忘れ」「依頼書記載間違い」が0件となり、パークヒル病院で「検体容器間違い」「検体提出忘れ」が0件となりました。（※グラフ1、2を参照）

至急検査依頼の検体数でみると、導入前が466件であるのに対して、導入後は103件と約78%も減らすことができました。事業所別でも、導入後、パークヒル病院94件（▲73.7%）、老健施設9件（▲91.6%）と、いずれも70%を超える大幅減少を達成することができました。（※グラフ3、4を参照）

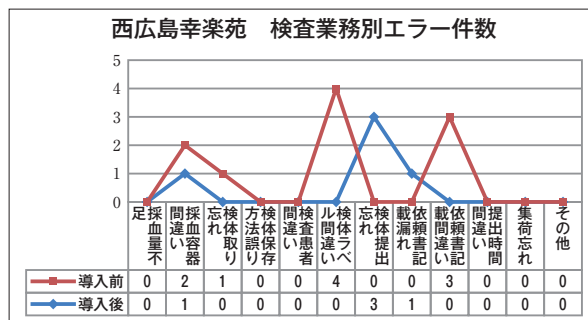
《システム導入後6か月間で検査に関するエラー件数及び至急検査依頼状況》

グラフ1

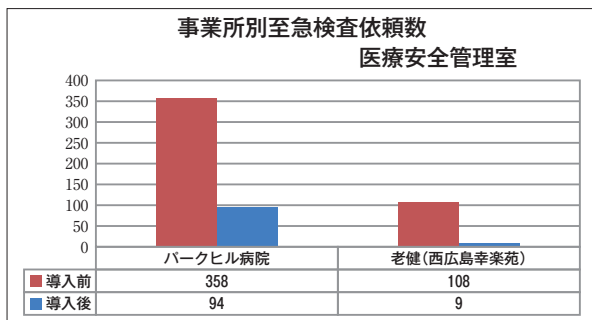


導入前：平成25年10月～平成26年3月
導入後：平成26年4月～平成26年9月

グラフ2

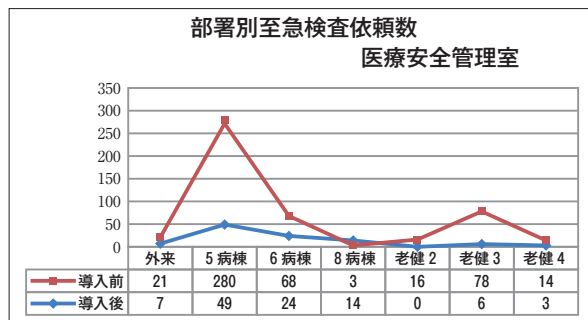


グラフ3



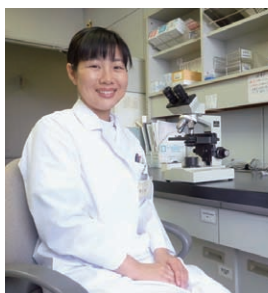
導入前：平成25年10月～平成26年3月
導入後：平成26年4月～平成26年9月

グラフ4



（広島パークヒル病院様の『5S プロジェクト実践活動報告』から）

臨床検査部門の声



小橋 亜弥 さん／臨床検査技師

good job

「検査依頼時のミスがなくなりました！」

検査オーダーリングシステム（HOSTIA）導入後は手書きの検査依頼書は少なくなり、検査依頼書にオーダーが印字されるよう（印刷物）になったため、読み間違いや記入間違いなどといったケアレスミスはなくなりました。

good job

「院内ルールが変わりました！」

WOLF（カルテ情報ファイリングシステム）を使えば、検査結果は当日中に確認することができます。遅くとも翌朝には分かります。以前は緊急検査でのオーダーが毎日のようにあったのですが、HOSTIA と WOLF を導入後は、「原則、通常検査依頼分での至急検査は依頼しない」という院内ルールに置き換わりました。



good job

「パソコン操作に不慣れでも大丈夫です！」



正直なところ、パソコン操作に病院スタッフはついていけないのか、あるいはみんなが足並みをそろえて活用していいのか、すごく不安を抱えていました。

そんな不安に対して、医師会検査センターさんは、1か月のうちに3回も説明会を開催してくれました。また、検査センターのシステム担当者が毎週のように当院まで足を運んでくださって、質疑応答の場をたくさん持っていただきました。連絡をすれば当日もしくは翌日には駆けつけて分かりやすく教えていただきました。

good job

「臨床検査業務に集中できるようになりました！」

HOSTIA で依頼することでミスが防げ、WOLF を使ってその場に居ながら検査結果を確認できます。結果として他部門からの問合せも減り、検査室の本来業務に集中できるようになりました。

介護老健施設の声



蛸原 あゆみ さん／看護職 *平成27年3月撮影当時勤務

good job

「検査依頼時の業務効率が格段にアップしました!」

当時は、当施設の医師が患者カルテに記載した検査内容と検査オーダーシートに書かれた患者氏名・検査項目とを照合することから始め、続いて検体スピッツの準備、そして検体用ラベルに患者氏名を記入するのが看護師の役割でした。とにかく、患者氏名を書き移す手間が一番大変だったことを覚えています。それに加えて、検体スピッツはこれで正しいのか、濁点などを含め名前の表記はどう統一させるのか、臨床検査部門に確認したり、自分たちで調べてみたり…。

HOSTIA 導入後は、人によっては読みにくさがあった文字も分かりやすくなりました。印字されるラベルにスピッツも表示されているので、他の職員に尋ねたり調べたりすることは少なくなりました。何ととっても検体採取容器が一目瞭然となったことが一番助かっています。そのおかげで、気分も楽になりました。（それまでは総合検査案内で調べたり、先輩に確認したりしていました。）

good job

「特にトラブルもなく快適です!」

検査オーダリングシステムを導入後、特に不具合もなく故障もなく、医師会検査センターさんへの問合せもなくなりました。

以前は検査会社2社にお願いをしていたため流れが複雑でしたが、今は医師会検査センターさん1本となりスッキリした感じです。



good job

「検査結果の確認についても申し分ないです!」



（WOLF での）結果報告についても、時系列で表示され見やすく参考になるうえ、病院から老健施設へと患者の移動があっても、どこでも結果が閲覧できるので、とても便利になりました。また、午前中に検査依頼したものの15時、16時には結果を確認することができる（夕方依頼のものは22時ごろ確認可）ので、本当にスゴイです。

外来部門の声



重藤 千鶴江 さん(向かって右)／外来師長

岡 郁美 さん(向かって左)／看護師

good job

「検査セットが組みやすくなりました！」

よく出る検査セットならセット項目の内訳を覚えていました。それでも、滅多にオーダーされないセットや検査に関してはマニュアルを確認したり、思い出したりしないと難しかったところ、HOSTIA 導入のおかげで、簡単に、もれなくセット検査を組むことができるようになりました。〔例〕労災セット、針刺しセット、前立腺セット etc.

good job

「氏名の書き方で気を遣わなくても済むようになりました！」

手書きの文字は人によって読みやすさに差が出ます。オーダーリングシステム（HOSTIA）を使えば、文字が鮮明に印字されるので、見間違いや読み間違いはありません。以前はあった名前間違いは無くなりました。



good job

「検査結果がその場で素早く確認できます！」



外来といっても地域住民よりも老健施設入所者の定期検査を主に担当しています。そのため医師が常駐しているわけではなく、看護師が検査結果を確認し、担当医に報告することで、患者さんへの処置に反映されます。

以前は、通常の検査報告は翌日の昼にならないとわかりませんでした。緊急検査の結果やパニック値報告ですら、報告される FAX が別の部屋にあったので、行くだけでも手間でした。それが今では、診察室に居ながら WOLF で結果確認がすぐできるので、非常に助かっています。

good job

「前回値と簡単に比較でき、異常があれば発見されやすくなりました！」

WOLF が導入される前は、紙カルテで前回の検査結果値を確認していました。しかもカルテは事務室での管理です。診察室から移動するだけでも無駄な時間でした。

診察室にある WOLF では時系列に検査結果が表示され、一目でその変化に気づきやすくなりました。